

令和2年度独立行政法人国立美術館年度計画

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

①-1 独立行政法人国立美術館（以下「国立美術館」という。）は、研究成果、利用者のニーズを踏まえ、各館の特色を生かした所蔵作品展を小企画展・テーマ展として行うものを含め開催する。企画展では、メディアアート等の先端的な展覧会やアジアに目を向けた展覧会、作家・作品の再発見・再評価、海外の美術館との連携協力により世界の美術の紹介を目指した展覧会を開催する。

映画については、保存・復元成果の活用と、国内外の同種機関や関連団体との積極的な連携を通して、映画人や時代、国やジャンル等様々な切り口による上映会・展覧会をバランスよく実施し、多様な鑑賞機会の提供を図る。

また、入館者アンケート調査及び「非来館者調査」等を実施し、そのニーズや満足度を把握し、分析結果を展覧会事業等に反映させる。

その他各館のホームページをはじめ、インターネットを活用した展覧会事業等の広報により一層努める。

各館では以下の方針に基づき、別表1の展覧会等を開催する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

所蔵作品展では、特集展示による新たな視点の提供や、多言語による掲出解説文の充実に努め、約100年にわたる日本美術の流れを体系的に示す国内最大の展示としての使命を十全に果たす。主な特集展示として、「美術館の春まつり」、「男性彫刻（仮称）」、「幻視するレンズ（仮称）」等を開催する。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「オリンピック・パラリンピック」という）にちなみ、重要文化財を中心とした名品を集中的に展示し、特に海外からの来館者に日本の文化理解を促す。

企画展では、オリンピック・パラリンピックにちなみ、新国立競技場の設計を担当した建築家の個展「隈研吾展（仮称）」を開催するほか、国立美術館6館のコレクションを活用した「眠りの理由 国立美術館コレクションによる展覧会（仮称）」、幕末から昭和期の絵画表現に焦点をあてた「あやしい絵展」を開催する。

〈工芸館〉

国立工芸館石川移転開館記念展として所蔵作品による企画展を3本開催する。第1弾では、日本博の総合テーマ「日本人と自然」にちなんだ「工の芸術—素材・わざ・風土（仮称）」展を開催し、日本の素材と風土に着目しつつ、各分野からの名品を紹介す

る。第2弾となる「うちにこんなあったら展 工芸館のデザイン+工芸コレクション（仮称）」では、コレクションの軸としている工芸とデザイン作品の関連が読み取れるように展示を工夫しながら歴史的な展開を考察する。第3弾では、日本の工芸の発展と深い関わりを持つ茶の湯をテーマにした「近代工芸と茶の湯—四季のしつらい—（仮称）」を開催する。さまざまな素材や技法を駆使したつくり手の想いを伝える「表現の“うつわ”」と、使い手からの「見立ての“うつわ”」を四季の取り合わせの中で紹介し、時代によって移りゆく茶の湯の器の楽しみ方を考察する。

また、新しくできる小規模展示室3部屋にそれぞれテーマをもうけて工芸の普及を図る。第1室では、2Dや3Dの高精細画像による鑑賞システムなどを設置して工芸に親しむ場をつくる。第2室は、石川出身の蒔絵の人間国宝・松田権六の工房を移築し、作家ゆかりの制作道具や関連資料などの展示、記録映像の放映などを行う。第3室では、若手作家の作品を展示紹介し、工芸及びデザインの新たな可能性を探る。

(京都国立近代美術館)

所蔵作品展では、各ジャンルともに企画展と連動したテーマを積極的に採用しつつ、年間5回の総展示替によって幅広いコレクションを紹介する。また「キュレトリアル・スタディーズ」と題した外部研究者・機関との共同研究調査に基づく展示も行い、「チェコのブック・デザイン 1920-1935」と「須田国太郎」を採り上げる。

企画展では、1918年のチェコスロヴァキア建国から今日まで100年にわたるチェコのデザインを紹介した「チェコ・デザイン 100年の旅」と、日本・ポーランド国交樹立100周年を記念した「ポーランドの映画ポスター」を開催する。続いて、友禅の人間国宝森口邦彦氏の初の大回顧展「人間国宝 森口邦彦 友禅/デザイン 交差する自由へのまなざし」を開催し、「京（みやこ）のくらし—二十四節気を愉しむ」では、京都国立近代美術館コレクションの優品によって日本のくらしにおける自然と芸術の豊かな関わりを紹介する。また、世界的に活躍するスイスの女性アーティスト、ピピロッチェ・リストの個展「ピピロッチェ・リスト（仮称）」を開催するほか、「分離派建築会100年（仮称）」では、日本で最初の近代建築運動とされる「分離派建築会」の活動の軌跡を検証し、今日世界的に評価される日本の現代建築の源流を探る。

(国立映画アーカイブ)

上映会では、日本映画界を長く牽引してきた松竹映画 100 年の名作・代表作のほか、その知られざる多様性を再発見する試み「松竹第一主義 松竹キネマの 100 年（仮称）」を展覧会と併せて開催する。また、生誕 100 年を迎える国際的な映画俳優三船敏郎を回顧する「生誕 100 年 映画俳優 三船敏郎」、また、戦前から戦後にかけて活躍し、生誕 100 年を迎えた 2 女優の足跡を辿る「生誕 100 年 映画女優 原節子」と「生誕 100 年 映画女優 山口淑子」、弁士の説明や生演奏を付けて無声映画を上映する企画「サイレントシネマ・デイズ 2020」等を開催する。

所蔵作品上映では、「1980-1990 年代日本映画特集（仮称）」を上映し、小ホールでは新たな上映企画として、様々な作品を臨機応変にプログラミングする「レパートリー上映 2020 秋(仮称)」と「レパートリー上映 2021 冬(仮称)」を開催する。

共催企画上映では、「第 42 回びあフィルムフェスティバル」や「EU フィルムデーズ

2020」のほか、東京国際映画祭等との共催で「アメリカ映画特集（仮称）」、中国電影資料館との共催で「中国映画の全貌（仮称）」、そして、小ホールにおいて、ワーナーブラザーズジャパンとの共催で「35mm フィルムで見るクリント・イーストウッドの軌跡（仮称）」を上映する。

展覧会では、スチル写真・ポスター・プレス資料等の所蔵コレクションを活用しつつ、特集展示「NFAJ コレクションでみる 日本映画の歴史」を実施するとともに、企画展として「松竹第一主義 松竹キネマの100年（仮称）」を上映企画と併せて開催、また、黒澤監督の作品で公開70周年を迎える「羅生門」をテーマにした「公開70周年記念 映画「羅生門」展」、ストップモーション撮影による人形アニメーションの2巨匠の業績を回顧する「川本喜八郎+岡本忠成 パペット・アニメーション 2020(仮称)」を開催する。

(国立西洋美術館)

所蔵作品展では、松方コレクションを含む絵画及び彫刻作品の展示を行う。また、版画素描展示室においては、第2回写本展「内藤コレクションⅡ 中世からルネサンスの写本祈りと絵」で、イギリス、フランス、ネーデルラント、ドイツの15-16世紀写本を紹介する。さらに、第3回写本展「内藤コレクションⅢ（仮称）」を開催する。

企画展では、「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」を開催するほか、「スポーツ in アート展-ギリシャ彫刻×印象派の時代」では、オリンピック・パラリンピック開催を機に、古代オリンピックが生まれた古代ギリシャ時代と、近代オリンピックが誕生した19世紀後半のふたつの時代に焦点を当て、さまざまな美術作品の展示を通じてスポーツと身体表現の歴史を振り返る。

(国立国際美術館)

所蔵作品展では、企画展に合わせ、5期に分けて展示を開催する。2期と3期は、令和元年度に購入したエルズワース・ケリー《斜めの黒いレリーフ》を中心に、20世紀美術における抽象絵画の役割を紹介するコレクション展を予定している。また、通期にわたって国立国際美術館が所蔵する名品を中心とした展示を実施する。

企画展では、ベトナム生まれの作家ヤン・ヴォーによる写真や絵画、カリグラフィーなどを用いたインスタレーション作品を紹介する「ヤン・ヴォー ーオヴ・ンヤ」、今村源、中原浩大、名和晃平といった日本を代表する現代作家たちが美術館の展示室をラボラトリーとして捉えるような実験的な試みを実施する「感覚の交差展（仮称）」、20世紀ドイツ美術を代表するヨーゼフ・ボイスとその弟子パレルモ、二人の造形理念を公開する「ボイス+パレルモ（仮称）」を開催する。さらに、スペインに生まれフランスで活躍するミケル・バルセロの表現主義的な抽象絵画など、地域や時代を離れた様々なスタイルの現代美術を紹介する「ミケル・バルセロ展（仮称）」を開催する。また夏期に開催する「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」は、同美術館のコレクションを英国外で大規模に紹介する初めての試みであり、古典的絵画から後期印象派に至るまで、日本で公開される機会の少なかった同館コレクションの名品を一堂に会して紹介する。

(国立新美術館)

「古典×現代 2020—時空を超える日本のアート」では、現代の表現に古典の名品を組

み合わせるにより、それぞれの魅力を新たな観点で紹介する。「ファッション イン ジャパン 1945-2020 流行と社会」では、戦後から現在に至るまでの日本のファッションを包括的に紹介する。「MANGA 都市 TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮 2020」では、東京の歴史を背景に、東京に実在する場所を下敷きに描かれたコン テンツ作品や、作品から飛び出し現実の街に現れたキャラクター達を紹介し、作品と現 実の世界で重層的に描かれた東京の姿を浮かび上がらせる。「佐藤可士和展」では、日本 を代表するクリエイティブディレクター佐藤可士和の約 30 年にわたる活動を多角的に 紹介する。「カラヴァッジョ 《キリストの埋葬》展（仮称）」では、バチカン美術館所 蔵のカラヴァッジョの代表作《キリストの埋葬》を、映像や同時代の版画・資料とともに 展示し、制作の歴史的背景を明らかにしながら紹介する。「DOMANI・明日展 2021（仮 称）」は、文化庁の「新進芸術家海外研修制度」を利用して海外で研鑽を積んだアーティ ストたちを取り上げる。「オルセー美術館展（仮称）」では、同館が対象とする 1848 年 から 1914 年までを射程とし、この時代の芸術の中心地であったパリの芸術文化を総合的 に紹介する。「イヴ・サンローラン展（仮称）」は、20 世紀のファッション界の巨匠イ ヴ・サンローランの初期から晩年までの創作を包括的に紹介する。

①-2 国立美術館における企画機能の強化を図るため、交換展・共同企画展の充実と、所蔵 作品の相互貸出の推進に努めるとともに、5 館共同企画展の成果を踏まえ、今後の各 館連携について検討する。

①-3 国立美術館は、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、 良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて入館者数の目 標を設定し、その達成に努める。

② 国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普 及を図るため、全国の公私立美術館等と連携して、地方巡回展を実施する。また、全国の 公立文化施設等において優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

ア 国立美術館巡回展

「令和 2 年度国立美術館巡回展・京都国立近代美術館所蔵品展 京（みやこ）の美術— 洋画、日本画、工芸」

（担当館：京都国立近代美術館）

（ア）期間：令和 2 年 7 月 11 日（土）～8 月 30 日（日）（45 日間）

会場：北海道立旭川美術館（北海道旭川市）

（イ）期間：令和 2 年 9 月 19 日（土）～11 月 8 日（日）（44 日間）

会場：高崎市タワー美術館（群馬県高崎市）

イ 優秀映画鑑賞推進事業

広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供し、あわせて国民の映画文化や映画芸術へ の関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁の 協力のもと、教育委員会、公共文化施設等との連携・協力による共催事業として、全国 各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：25プログラム 100作品（1プログラム4作品）

日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画等、それぞれのジャンルを代表する名作、時代を画した話題作等で構成し、同時に、地域の特徴を持った構成により、会場が参加しやすいよう工夫をする。

期間：令和2年7月13日（月）～令和3年3月7日（日）

会場：全国160会場（予定）

ウ 巡回上映等

(ア) 「NFAJ 所蔵作品選集 MoMAK Films」（年4回）

期間：令和2年4月、8月、10月、令和3年2月（予定）

会場・共催：京都国立近代美術館

(イ) 「中之島映像劇場—国立映画アーカイブ所蔵作品による」

期間：令和2年度中（予定）

会場・共催：国立国際美術館

(ウ) 「東京国際フォーラム+国立映画アーカイブ 月曜シネサロン&トーク」（年4回予定）

期間：令和2年6～7月、9月、11～12月、令和3年2～3月（予定）

会場・共催：東京国際フォーラム（東京都千代田区）

(エ) 「Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！（仮称）」

期間：令和2年4月～令和3年3月

会場：地方会場複数（予定）

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

(2) 美術創造活動の活性化の推進

① 国際的に注目されるメディアアート、マンガ、アニメ、建築、デザイン、ファッション等の様々な芸術表現を紹介し、新たな視点を提起する展覧会事業等を実施する。

ア 東京国立近代美術館本館では、東京オリンピック・パラリンピックの開催にちなみ、新国立競技場の設計を担当した建築家の個展「隈研吾展（仮称）」を開催する〔再掲〕。また、同展においてはプロジェクション・マッピングなど最新技術を活かした展示を行う。

イ 京都国立近代美術館では、「人間国宝 森口邦彦 友禅/デザイン 交差する自由へのまなざし」で友禅作家森口邦彦氏によるデザインワークや企業とのコラボレーションを紹介し、映像・音楽を主な表現メディアとするアーティスト、ピピロッティ・リストの個展を開催する〔再掲〕。また、「分離派建築会100年（仮称）」では日本における近代建築の発展を主題とする〔再掲〕。

ウ 国立映画アーカイブでは、教育普及企画の「こども映画館2020年の夏休み★（仮称）」や京都国立近代美術館との共催事業「MoMAK Films」において、日本アニメーション映画をテーマにしたプログラム等を開催する。さらに一般社団法人コミュニティシネマセンターと共催で「Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！（仮称）」の巡回上映を開催し、館外での人材育成活動に

有用な教材及びそのプログラムを検証する。

オ 国立新美術館では、様々な芸術表現を紹介する展覧会事業等について以下のとおり実施する。

(ア) 「古典×現代 2020—時空を超える日本のアート」では、時代を超えて共通する造形要素、理念、主題等に着眼し、古典と現代の表現を並べて鑑賞するというこれまでにない新しい組み合わせの展示を実施する〔再掲〕。

(イ) 「ファッション イン ジャパン 1945-2020 流行と社会」では、戦後から現在に至るまでの日本のファッションを、衣服に加えて各時代の社会背景を明らかにする写真、雑誌、映像などの資料も展示しながら、包括的に紹介する〔再掲〕。

(ウ) 「MANGA 都市 TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮 2020」では、17m×22mの巨大東京都市模型（縮尺 1/1000）とオリジナル映像とのコラボレーションを行い、約 95 タイトルのマンガ等の貴重な原画とともに、展覧会コンセプトを分かりやすく体感できる展示を実施する〔再掲〕。

(エ) 「佐藤可士和展」では、ロゴマークからプロダクト、建築、環境まで多領域にわたってヴィジュアル・アイデンティティを創出する佐藤の総合的なデザインの特質を、原寸大ビルボード広告の再現的展示や、主要なロゴマークを素材とする大規模なインスタレーションなど、斬新な展示方法で紹介する〔再掲〕。

(オ) アニメーション表現による映像作品を紹介する機会として「TOKYO ANIMA!2020」を共催するとともに、「インターカレッジ・アニメーション・フェスティバル (ICAF) 2020」及び「イントゥ・アニメーション」に特別協力し、上映イベント、ワークショップを開催する。その他、マンガ、アニメーション、ゲームに関連した事業の企画や協力を行う。

② 国立新美術館は、美術団体等に公募展会場の提供等を行う。

ア 令和2年度に公募展等を開催する美術団体等に会場を提供する。

イ 令和4年度に施設を使用する美術団体等を決定する。

ウ 美術団体等が快適に施設を使用できる環境の充実を図るとともに、美術団体等と連携して教育普及事業を行う。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能向上

美術に関する情報の拠点としての機能を向上させ、国民の美術に関する理解の促進に寄与するとともに、長期的には、日本・アジアにおける西洋美術の、また世界における日本近・現代美術の研究の中心となることを目指し、平成26年度に設置した「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」において検討を進める。

① 法人のホームページ及び各館のホームページについては、内容の充実を図り、国立美術館の活動について積極的な情報発信に努める。

所蔵作品情報については、平成28年度年度に実施した平成18年度以降の新収蔵作品の著作権者の調査等に基づき、許諾を得たものについて国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、新収蔵作品等について著作権者の調査を継続する。加えて、専門家のための情報発信として、歴史情報（来歴等）を含む所蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家向けにも利用可能なレベルの情報をインタ

ーネットを通じて公開し、国内外の研究促進に貢献する。

また、国立美術館の公開情報資源（国立美術館所蔵作品総合目録検索システム、国立美術館各館の図書検索システム、国立西洋美術館所蔵作品データベース及び国立新美術館アートコモンズ等）を一元的に検索・閲覧できるシステムの開発を進めるとともに、国立国会図書館サーチ（NDL Search）及び文化庁文化遺産オンラインとの連携を継続する。

このほか、国立美術館の事業成果を取りまとめた『国立美術館年報』を発行する。

（東京国立近代美術館）

ア 研究紀要25号（令和2年度刊行予定）の全文をホームページで公開する。

イ ホームページの更なる機能向上に向けての知見の蓄積を図る。また、ソーシャル・ネットワークキング・サービス（以下「SNS」という。）を活用し、積極的に情報を発信する。

ウ 「東京国立近代美術館リポジトリ」を通して、ホームページ上で刊行物等を広く公開する。

（京都国立近代美術館）

ア 利用者のニーズの多様化に対応し、スマートフォンの普及など、端末の環境変化にあった情報提供に努める。

イ 展覧会情報、講演会、教育普及などのイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに、フェイスブックに加え、令和元年度に新たに開設したインスタグラムを活用し、積極的に情報を発信するとともに、ホームページへのアクセスや美術館への来館を促進する。

ウ コレクション・ギャラリーのテーマ展示に関する解説を4か国語（日本語、英語、中国語、韓国語）でホームページに掲載し、情報発信の充実に努める。

エ 過去の展覧会情報をアーカイブ化して、ホームページ上で公開する。

（国立映画アーカイブ）

ア 定期刊行物及び上映作品に関する広報物の内容の充実と、従来のホームページ、メールマガジン、ツイッター、フェイスブックに加え、平成30年度に新たに開設したインスタグラムを活用し、積極的に情報発信を行う。

イ ホームページ上の「NFAJデジタル展示室」の充実や、所蔵技術資料のデジタル化に取り組む。

（国立西洋美術館）

ア 専門家のための情報発信として、歴史情報（来歴等）を含む所蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家向けにも利用可能なレベルの情報をインターネットを通じて日英2か国語（日本語、英語）で公開し、国内外の研究促進に貢献する。

イ 「国立西洋美術館出版物リポジトリ」を通じて『国立西洋美術館研究紀要』及び『国立西洋美術館報』最新号を公開し、美術に関する研究成果等についてオープンアクセス化を推進する。

- ウ 広報の情報発信として、展覧会活動その他の活動状況を4か国語（日本語、英語、中国語、韓国語）のホームページやSNSを通じて積極的に発信する。
- エ 所蔵作品に関する情報資産の安全な運用のため、所蔵作品データのバックアップ・コピーの作成及び遠隔地での保管を実施する。

（国立国際美術館）

- ア レジストラの管理の下、所蔵作品管理システムを活用して効率的管理を行う。
- イ 歴史情報（来歴、展歴等）を含む所蔵作品の情報整備に努め、インターネットを通じて日英2か国語で公開する。
- ウ 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに複数のSNSを活用し、積極的に情報を発信する。
- エ ホームページについて、現在の展覧会情報だけでなく、過去の展覧会情報についても充実を図る。また、セキュリティ環境のアップデート及びタブレット・スマートフォンユーザーに対応するため、ホームページの改修計画を継続して行う。
- オ 4か国語（日本語、英語、中国語、韓国語）のフロアガイド等をホームページ上で公開する。

（国立新美術館）

- ア SNS等を活用し、館の活動を積極的に発信するとともに、ホームページへの利用者の誘導を行う。スマートフォン等でも使いやすいホームページを整備し、利用者の利便性の向上を目指す。
- イ 所蔵する図書資料や写真資料、戦後日本の展覧会データのホームページ上の横断検索を検討し、情報資源の積極的な活用を図る。
- ウ 脆弱な所蔵資料を対象としたデジタル化を実施する。さらに、これまで閲覧に供することが難しかった脆弱な所蔵資料をデジタル化資料として提供する閲覧サービスを試験的に運用し、脆弱な所蔵資料の保存と利用者の閲覧の利便性向上の両立を図る。

- ② 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。

（東京国立近代美術館）

〈本館〉

本館アトライブラリーにおいて近・現代美術関連資料を収集し、公開する活動を継続的に進める。

〈工芸館〉

工芸館アトライブラリーを開設し、近・現代美術及び工芸関連資料を収集し、公開する活動を進める。

（京都国立近代美術館）

情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を継続的に進

める。

(国立映画アーカイブ)

ア 映画関連の図書資料を、購入や寄贈などを通じて積極的かつ継続的に収集し公開する。

イ 戦前期の映画雑誌など図書資料のデジタル閲覧システムの充実を図る。

(国立西洋美術館)

ア 西洋美術に関する情報及び資料を収集し、調査研究活動の基盤とする。電子リソースも積極的に取り入れ、収集資料は研究資料センターにおいて外部利用者にも閲覧に供する。

イ 美術に関する情報拠点としての機能を強化するとともに国際的な美術情報流通の向上に寄与するため、美術図書館連絡会 (ALC) や「アート・ディスカバリー・グループ・カタログ」への参加等、国内外の美術図書館と連携する。

ウ 松方コレクション及び林忠正資料を中心に研究資源の整備・公開を引き続き進める。

(国立国際美術館)

現代美術に関する資料や情報を積極的に収集し、調査研究活動の基盤とする。また、情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を継続して実施する。

(国立新美術館)

ア 国内美術展カタログの海外への寄贈事業 (Japan Art Catalogプロジェクト) の質的な充実を図るとともに、国内有数の所蔵数を誇る展覧会カタログのコレクションの更なる充実を努め、日本の現代美術に関する資料のアーカイブ構築・公開を進める。

イ 「アート commons」の収録展覧会情報のより一層の充実を図り、展覧会情報と同館が有する美術情報との連携を進める。また、「アート commons」の収録展覧会情報を広く活用するために文化情報等を横断的に検索できる、国立国会図書館が実施する「ジャパンサーチ」との連携等を行う。

- ③ 国立美術館において蓄積された作品、図書、展覧会等に関わる情報資源の安全な活用を図るためにデータの二重化を含めバックアップ体制を維持する。そのためのバックアップ用 VPN (バーチャル・プライベート・ネットワーク) 回線を維持する。

(4) 教育普及活動の充実

- ① 年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開するとともに、美術教育に携わる教員等に対する美術館を活用した鑑賞教育に関する研修や、学校で活用できる教材「アートカード」の貸出と普及に努め、美術の一層の普及を図る。また、学校や社会教育施設に対して、これら事業の広報に努める。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

外国人来館者向けの英語による鑑賞・異文化交流プログラム「Let's Talk Art」及びビジネスパーソン対象のオリジナルプログラム「Dialogue in the Museum」を実施する。また、「ピーター・ドイグ展」「隈研吾展（仮称）」にあわせ、エントランスホールにて随時参加できるワークショップコーナーを設置する。その他、所蔵作品展、企画展ともに幅広い層にあわせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。特に小・中学生、高校生の発達段階に応じた鑑賞教育は、生涯にわたって美術と美術館に親しむための基礎的な学びの機会として位置付け、学校と連携しつつ実施し、調査・研究を進める。

ア 企画展に関する講演会やギャラリートークの実施

イ 所蔵作品展に関するキュレーター・トーク、解説ボランティア（本館ガイドスタッフ）による所蔵品ガイドの実施

ウ 「春まつりトークラリー」や「フライデー・ナイトトーク」など、イベントや夜間開館に対応した解説プログラムの実施

エ 外国人来館者向けの英語鑑賞プログラム「Let's Talk Art」の実施

オ ビジネスパーソン向けに鑑賞プログラム「Dialogue in the Museum」の実施

カ 「ピーター・ドイグ展」「隈研吾展（仮称）」にあわせ随時参加できるワークショップコーナーを設置。

キ 小学生を対象とした「ピーター・ドイグ展こども美術館」、ドイグ展中高生連携ワークショップ、未就学児とその親を対象とした「おやこでトーク」の実施

ク 各種学校からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのスクール・プログラムや「先生のための鑑賞日」の実施

ケ 小・中学生向けの「セルフガイド」や親子向けの「セルフガイド・プチ」「英語版セルフガイド・プチ」の会場配布

コ 「デジタル版セルフガイド」の会場使用を試行

〈工芸館〉

ア 展覧会ごとに講演会やアーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施

イ 一般観覧者向けの「鑑賞カード」の配布

(京都国立近代美術館)

幅広い層の人々への美術鑑賞・美術館での体験に対する関心を高めることを重点目標に置き、展覧会に関連した講演会や解説を開催する。また、美術館を活用した各種団体の自発的な学習・研究等を積極的に支援するとともに、美術鑑賞教育の核としての現場指導者の質の向上を目指す。さらに、障害者や若年層、家族連れをはじめとする利用者層にもアプローチしながら、美術館での体験の枠組みを広げる取組を進める。

ア 小・中・高等学校、特別支援学校及び大学の授業や課外活動との積極的な連携

イ 教員の美術館利用プログラムに対する支援

ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施

エ 企画展に関連した講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施

- オ 京都市教育委員会等との共催による小・中学校教員を対象とした授業実践力向上講座の開催
- カ 誰もが美術館や美術作品を楽しめるユニバーサルプログラムの継続的な実施

(国立映画アーカイブ)

映画及び映画保存に関して、幅広い層に合わせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。

- ア 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施
- イ 新たに復元した映画の上映と講演会の実施
- ウ 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供する「こども映画館 2020年の夏休み★(仮称)」の実施〔再掲〕
- エ ポーランド広報文化センター等との共催でヴィシエグラード・グループ各国の多様なアニメーションなど短篇作品の鑑賞機会を提供する「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」の実施
- オ 一般社団法人コミュニティシネマセンターとの共催による巡回上映事業「Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション!(仮称)」の実施〔再掲〕
- カ 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づく上映会及び施設見学並びに相模原市内の小・中学生を対象とした上映会等の実施

(国立西洋美術館)

より多くの人に美術・美術館に親んでもらう機会を創出し、各対象に応じた学びを提供するため、所蔵作品展と企画展の双方に関連して多様なプログラムを実施する。また、学校、家族、障害のある人といった特定の対象に向けたプログラムを行うなど、社会的包摂も視野に入れた活動に努める。

- ア 「スクール・ギャラリートーク」、職場訪問、オリエンテーション(小・中・高等学校の団体対象)の実施
- イ 「美術トーク」及び「建築ツアー」(一般対象)の実施
- ウ ファミリー・プログラム「どうようびじゅつ」の実施
- エ 『西洋版画を視る』熟覧プログラム(大学院生・教員対象)の実施
- オ クリスマス・プログラム(トーク、クリスマスキャロル・コンサート等)の実施
- カ 企画展に関連した講演会とスライドトークの実施
- キ 企画展に関連した「先生のための鑑賞プログラム(解説&無料観覧)」の実施
- ク 障がいのある人を対象とする特別プログラムの実施

(国立国際美術館)

0歳児も含めた就学前の幼児と保護者対象の美術館体験と鑑賞プログラムの充実、及び障害者対象プログラムを実施する。また、所蔵作品展、企画展に合わせて、幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感じ、それぞれの人に合った学びを得られるプログラムを実施する。そのほか、各校種・研究団体と連携することにより、幼保・小・中・高等学校・特別支援学校とのより一層の結びつきを深め、鑑賞教育の充

実を促進する。

- ア 企画展に関連した講演会・対談・アーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施
- イ 所蔵作品展に関連したギャラリートークの実施
- ウ プレミアムフライデーに対応したギャラリートークの実施
- エ 小・中学生向け作品鑑賞プログラム「こどもびじゅつあー」の実施
- オ 未就学児とその家族向けプログラム「ちっちゃなこどもびじゅつあー ～絵本もいっしょに～」の実施
- カ ファミリー・プログラム「なつやすみびじゅつあー」「びじゅつあーすぺしゃる」の実施
- キ 子供から大人までを対象にした現代美術作家等によるワークショップの実施
- ク 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」の配布
- ケ 鑑賞補助教材「アクティヴィティ・ブック」の作成
- コ 教職員向け美術館活用促進印刷物「スクール・プログラムガイド」の配布
- サ 幼児・小・中・高等学校・特別支援学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのオリエンテーション及びギャラリートークの実施
- シ 教職員向け美術館活用プログラム「ティーチャーズ・デイ（仮称）」（幼児・小・中・高等学校・特別支援学校の教職員対象）の実施
- ス 美術館活用及び鑑賞教育に関する教員研修の実施
- セ 大阪市教育センター、大阪府教育センター等との連携による研修会の実施
- ソ 障害者向けプログラムの実施

（国立新美術館）

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やアーティスト・トークを実施するほか、より多くの人々に美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広い層を対象に実施する。

- ア 展覧会にあわせた講演会及びアーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施
- イ 子供から大人まで幅広い層を対象にした作家等によるワークショップ等の実施
- ウ 美術団体等との連携による講演会、鑑賞会及びギャラリートーク等の実施
- エ 鑑賞ガイドの作成及び配布
- オ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンスの実施
- カ コンサートの実施
- キ 美術館の建築とその機能・特徴に親しむ建築ツアーの開催
- ク 来場者がいつでも美術館の建築について親しみ、美術館の機能について知ることができる、国立新美術館建築ガイドアプリ「CONIC」の配信（日本語・英語・中国語・韓国語の四か国語対応）。
- ケ 美術館近接地である港区及び渋谷区、千代田区の地域貢献活動として、休館日学校招待デー「かようびじゅつかん」の開催
- コ 美術館の協力者や来館者等を対象とし、美術館やアートセンター活動について理解を深める講演シリーズの開催

② ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。

(東京国立近代美術館)

(本館)

- ア 本館ガイドスタッフ（ボランティア）による、所蔵作品展の所蔵作品ガイド、「春まつりトークラリー」、「フライデー・ナイトトーク」及び児童向けの鑑賞プログラム「こども美術館」、「トークラリー」、「おやこでトーク」を実施する。
- イ 本館ガイドスタッフによる小・中学生の受入れ（スクール・プログラム）等、鑑賞教育の充実を図る。
- ウ 外部講師又は研究員によるフォローアップ研修を開催して、ガイドスタッフの意欲とファシリテーション・スキルの向上を図る。
- エ 「Let's Talk Art」のための英語ファシリテーターのフォローアップ研修を継続的に行う。〔再掲〕
- オ 有償ガイドスタッフによるビジネスパーソン向けプログラム「Dialogue in the Museum」等、有料プログラムを実施する。〔再掲〕
- カ 友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を実施する。

(工芸館)

- ア 開館記念展開催に併せて、臨時ボランティアを採用し、英語ガイドを実施する。
- イ 友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を実施する。

(京都国立近代美術館)

- ア 京都市との連携により、京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」修了者の中からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査等に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力する。
- イ 友の会については、各展覧会の解説会を実施するとともに、京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館、奈良国立博物館及び国立民族学博物館等と連携して会員証提示による優待割引を実施する。
- ウ 来館者サービス向上のため、友の会制度を見直し、新たな会員制度の導入検討を進める。

(国立西洋美術館)

- ア ボランティア・スタッフによる、小・中・高等学校生の団体を対象とした所蔵作品展でのスクール・ギャラリートーク、ファミリープログラム、週末の一般向け「美術トーク」及び「建築ツアー」を実施する。
- イ ファミリープログラム「どようびじゅつ」の共同企画及びボランティア企画による「金曜ナイトトーク」及び「ボランティアアート・プログラム」の実施を通して、活動への意欲と積極性を促す。
- ウ ボランティアの育成を目的として、プログラム遂行のためのスキルアップ研修及び広く美術に関する知識を学ぶための研修を実施する。

(国立国際美術館)

- ア 学生ボランティアを受け入れ、美術資料の整理、ワークショップ等の補助業務を通じて、美術館活動に参画する機会と実務経験を積む機会を提供する。
- イ 来館者サービスの向上を目的として、友の会制度を見直し、新たな会費制度の導入検討を進める。

(国立新美術館)

- ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受け入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を提供する。
- イ 教育普及事業等への企業協賛獲得に積極的に取り組む。
- ウ 近隣関係施設と連携・協力し、「六本木アート・トライアングル」を構成して、展覧会スケジュールが入ったマップの配布や、美術の普及につながる活動を行う。
- エ 協賛企業のボランティアと連携した教育プログラムの開発・実施。

(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信

国立美術館における美術作品の収集・展示・保管、教育普及、情報の収集・提供その他の美術館活動の推進を図るため、別表2のとおり各館において調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動の充実に生かす。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。

また、国立映画アーカイブにおいては、映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究を別表2のとおり計画的に実施する。

さらに、館外の学術雑誌、学会等に掲載・発表するとともに、館の広報誌、研究紀要、図録を発行するなど、調査研究成果の多様な発信に努める。

(東京国立近代美術館)

展覧会に伴う図録・小冊子、研究紀要、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』及び『東京国立近代美術館活動報告』等の刊行物を発行する。

(本館)

- ア 小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」及び「英語セルフガイド・プチ」を発行する〔再掲〕。
- イ 「デジタル版セルフガイド」を開発し所蔵作品展にて配信する〔再掲〕。

(工芸館)

一般来館者向けとして作品の情報と鑑賞のヒントを解説文と写真で紹介する「鑑賞カード」を発行する〔再掲〕。

(京都国立近代美術館)

- ア 展覧会に伴う図録、京都国立近代美術館ニュース『視る』、『京都国立近代美術館活動報告』及び研究論集『CROSS SECTIONS』等の刊行物を発行する。

イ コレクション・ギャラリーでの展示替え毎に、展示の解説をホームページ上に公開する。

(国立映画アーカイブ)

- ア 上映会や展覧会に伴い『NFAJ ニューズレター』等の刊行物を発行する。
- イ 上映会や展覧会では、上映作品や出品リスト情報をホームページ上に公開する。
- ウ セミナーの再録を、ホームページ上に公開する。

(国立西洋美術館)

- ア 研究紀要、展覧会に伴う図録、『国立西洋美術館ニュースZEPHYROS』、『国立西洋美術館報』等の刊行物を発行する。
- イ 企画展ごとに小・中学生向け解説パンフレット「ジュニア・パスポート」を発行する。

(国立国際美術館)

- ア 展覧会に伴う図録、『国立国際美術館ニュース』、『国立国際美術館活動報告』等の刊行物を発行する。
- イ 鑑賞補助教材「アクティビティ・ブック」を発行する〔再掲〕。

(国立新美術館)

- ア 展覧会に伴う図録、『国立新美術館 活動報告』等の刊行物を発行する。
- イ 鑑賞ガイドを発行する。

(6) 快適な観覧環境等の提供

- ① 各館において、動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行う。
また、多言語化を含め、より良い鑑賞環境を提供するための様々な方途について検討する。
なお、アンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等の提供に努める。

(国立美術館全体)

- ア 所蔵作品展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施する。
- イ 企画展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施する。
- ウ 館内において無料Wi-Fiを提供する。

(本部)

- ア 国外の主要メディアに各館を紹介するプレスリリースを配信するなど、外国人観光客の来館促進につながる広報を行う。
- イ 非来館者調査を実施し、結果を各館の来館者サービス充実等に活用する。

ウ 一般向けの国立美術館の紹介パンフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を制作し、各館、観光案内所及び宿泊施設等で配布することで、法人の認知度の向上及び集客に努める。

エ 法人概要（日本語、英語）を作成し、ホームページで公開する。

（東京国立近代美術館）

〈本館〉

ア 「美術館の春まつり」「MOMATサマーフェス」など、歳時にあわせた全館イベントを企画・実施する。その際は地域と連携するなどし、館の魅力を上げるとともに来館者層の拡大を図る。

イ 夏季期間、夜間開館周知のための広報施策を都内の美術館・博物館等と連携して実施する。

ウ 来館者サービス充実に向け、常設の電子アンケート（日本語、英語）を活用する。

エ 年間の展覧会カレンダーをホームページ等で早期に公開し、周知を図る。

オ 一般向けの館紹介パンフレット（日本語、英語）の配布、ホームページの充実などにより、館の認知度の向上及び集客に努める。

カ 館概要（日本語、英語）を作成し、ホームページで公開する。

キ 小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」「英語版セルフガイド・プチ」を配布する〔再掲〕。

ク 「デジタル版セルフガイド」を開発し所蔵作品展で配信する〔再掲〕。

ケ エントランスホールを中心に、デジタルサイネージ等を活用し、館内共有部分の環境整備を継続的に進める。

コ キャプション・解説パネル・出品リスト等の視認性の向上について必要な改善を行う。

〈工芸館〉

各作品の注目ポイントを写真と文章で明示した「鑑賞カード」の充実を図り〔再掲〕、来館者が興味深く鑑賞できるよう情報提供に努める。

（京都国立近代美術館）

ア 館フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語）を配布する。

イ 年間の展覧会案内（日本語、英語）を配布する。

ウ 小・中学生に対してガイドブックを配布する。

エ 京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを実施する。

オ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。

（国立映画アーカイブ）

ア 上映会・展覧会の年間カレンダー（日本語、英語）を作成し、ホームページ上でも提

示する。

- イ パンフレット（日本語、英語）を作成・配布し、ホームページ上に掲載する。
- ウ 長瀬記念ホール OZU での上映前に、開催中及び次回の上映会・展覧会についての広報と鑑賞マナーのアナウンスを映写する。
- エ 上映会の開催に際し、上映作品のリストを兼ねた広報物を作成・配布し、ホームページ上でも提示する。

（国立西洋美術館）

- ア 国立西洋美術館ブリーフガイド（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 企画展において小・中学生向け解説「ジュニア・パスポート」を配布する。
- ウ 国立西洋美術館の概要、本館に見られるル・コルビュジエの建築的特徴、同時に世界遺産に登録された7か国17資産の建物等を紹介するパンフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- エ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。
- オ 上野文化の杜実行委員会と協力し、上野文化の杜の専用サイト上で国立西洋美術館についての情報を発信する。

（国立国際美術館）

- ア 館概要リーフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」（所蔵作品展作品鑑賞のためのワークシート）、「アクティビティ・ブック」（作品鑑賞のためのアクティビティを提案している冊子）を配布する。
- ウ 展覧会スケジュール（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

（国立新美術館）

- ア 館フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、西語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会カレンダー（日本語、英語）を作成・配布する。
- ウ 展覧会において鑑賞ガイドを作成・配布する。
- エ 文字を大きくし、見やすくした「大きな文字の利用案内」を配布する。
- オ タブレットを介したテレビ電話形式による同時通訳システム（SMILE CALL）や通訳機（ポケットク）を導入し、海外からの来館者対応を円滑にする。
- カ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。
- キ QRコードを用いて、展覧会場の解説の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）情報を提供する。

- ② 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。

(国立美術館全体)

- ア 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及び18歳未満の展覧会観覧料無料化を実施する。また、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の学生向けウェブサイトの充実や普及広報等に努め、利用者増加及び加入校増加を目指す。
- イ 65歳以上の来館者について所蔵作品展の無料化を実施する。
- ウ 所蔵作品展及び企画展において、原則金曜日及び土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。
- エ 展覧会の混雑状況等を考慮し、開館日・開館時間等について柔軟な対応を行う。
- オ 「国際博物館の日」を記念して、展覧会の実施形態に応じ観覧料の無料化や割引を実施する。
- カ 東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立西洋美術館は、東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「東京トラベルガイド」に参加し、外国人旅行者に対して所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引を実施する。
- キ 東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館及び国立新美術館は、共通入館券事業「ぐるっとパス2020」に参加し、観覧料の割引を実施する。
- ク 京都国立近代美術館及び国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西2020」に参加し、観覧料の割引を実施する。
- ケ 東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立西洋美術館は、東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引又は無料化を実施する。
- コ 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立国際美術館では、所蔵作品展チケットのオンライン販売を実施する。

(東京国立近代美術館)

- ア 国民に広く美術作品等に親しんでもらうため、所蔵作品展を観覧できるパスポート観覧券の販売促進のための広報等に努める。
- イ 千代田区、東京メトロ、JAF、日本私立学校振興・共済事業団、学士会等と提携し、会員証等の提示による優待割引を実施、当該広報誌による展覧会広報とともに観覧料の低廉化を行う。
- ウ 東京刊行情報センター、東京シティアイ等と連携・協力し、外国人観光客及び東京への観光者に美術館の基本情報及び展覧会情報を提供する。
- エ クレジットカード、電子マネー（Suica 及びPASMO等）及びQRコード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。

(京都国立近代美術館)

- ア クレジットカードによる観覧券の窓口販売を行う。
- イ 株式会社京阪カード、株式会社阪急阪神カード等と提携し、カード提示による優待割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- ウ 京都国立博物館、京都府京都文化博物館、京都市京セラ美術館との観覧料の相互割引を実施する。

(国立映画アーカイブ)

- ア 長瀬記念ホール OZU と小ホールの上映時間の重複を極力避けた柔軟なタイムテーブルの編成を、1日3回上映も含めて検討し、来館者の鑑賞機会の増加に努める。
- イ 上映会鑑賞希望者の利便性を高めるため、企画上映において整理券を配布する。
- ウ 社会人や遠方に住む上映会鑑賞希望者の利便性を高めるため、前売券を販売する。
- エ 外国人の鑑賞を促進するため、多言語による上映環境の整備に向けて検討を行う。
- オ 視覚・聴覚障害者のためのバリアフリー上映を実施する。
- カ インターネット購入を含めた上映会観覧券購入のための新システムの導入について検討を行う。
- キ 上映会の鑑賞者に対し、当日の展覧会観覧料の割引を行う。
- ク 展覧会において、電子マネー（Suica 及び PASMO）及び QR コード決済サービス（訪日外国人向け）等による観覧券の窓口販売を行う。

(国立西洋美術館)

- ア クレジットカード、電子マネー（Suica 及び PASMO 等）及び QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。
- イ 「国際博物館の日」にあわせて上野地区の諸機関と連携してイベントを行う。
- ウ 第2・第4土曜日及び毎週金・土曜日の夜間開館時の所蔵作品展観覧料を無料とする。
- エ 夜間開館時において、展示と関連した他の芸術分野のイベント等を月一回程度実施することにより、夜間開館時及び新たな層の誘客を図る。

(国立国際美術館)

- ア クレジットカード及び QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。
- イ 「大阪周遊パス 2020」、大阪市高速電気軌道株式会社（大阪メトロ）「エンジョイエコカード」等に参加し、観覧料の低廉化を図る。
- ウ 近隣のホテル等と提携し、展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- エ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

(国立新美術館)

- ア 「六本木アート・トライアングル」を構成する近隣の美術館と観覧料の相互割引を行う。
- イ 美術団体等と協議の上、企画展及び公募展の観覧料の相互割引の実施を推進する。
- ウ 自主企画展における公募展との相互割引に関して、65歳以上の観覧者については、通常の割引後観覧料に代えて、大学生団体料金を試行的に適用し、高齢者の観覧料の低廉化を図る。
- エ 同時期に開催する企画展の相互割引を実施する。
- オ 共催者と協議の上、共催展の高校生無料観覧日を設定する。
- カ クレジットカード、電子マネー（Suica及びPASMO等）及びQRコード決済サービス

ス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。
キ 小学生以下の子供を対象とした託児サービスを通年で実施する。

- ③ 利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。
- ア 東京国立近代美術館本館では、展覧会にあわせ、レストランと連携、協力しコラボレーションメニューの開発、席の拡充や営業時間の延長など来館者サービスの向上を図る。ミュージアムショップでは、新商品を含むオリジナルグッズを販売する。
- イ 京都国立近代美術館では、カフェと連携、協力し、展覧会にあわせたテーマランチやテーマデザートを提供を行う。また、ミュージアムショップでは、新しいオリジナルグッズを製作し、展覧会にあわせた関連書籍やグッズをより充実させる。
- ウ 国立映画アーカイブでは、リニューアル後、1階ロビーにおいてオリジナルグッズ等の販売を開始する。
- エ 国立西洋美術館では、レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を推進するとともに、『国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS』やホームページで広報する。また、来館者サービスの向上を図るため、リニューアルしたミュージアムショップにふさわしいオリジナルグッズの開発、販売方法等を引き続き検討する。また、夜間開館時の館内レストランの営業時間を、展覧会終了の1時間後まで延長する。
- オ 国立国際美術館では、レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を行うとともに、ミュージアムショップと連携・協力してホームページに掲載されている商品情報等を充実させる。
- カ 国立新美術館では、ミュージアムショップと連携し、オリジナルグッズの開発やショップ内のギャラリーの展示に対する企画協力を行い、美術館の魅力の創出に努める。また、レストランと協力し、展覧会に関連した特別メニューの提供など、利用者へのサービス向上を図る。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1) 作品の収集

- ①-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に努める。

あわせて、購入した美術作品に関する情報をホームページで公開する。

(東京国立近代美術館)

(本館)

近代日本美術の体系的コレクションの構築を図りつつ、近代日本美術に影響を与えた海外作家の作品、及び日本と海外の同時代美術作品の収集を次の点について留意しながら積極的に行う。

ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集

イ 日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集

ウ 1900～1940年代の日本画作品の収集

〈工芸館〉

次の点について留意しつつ、近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図る。

- ア 日本工芸の近代化を示す作品の補充
- イ 戦後から現代に至る伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集
- ウ 近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集

（京都国立近代美術館）

- ア 近・現代美術史の将来的検証に資する作品・資料を収集する。
- イ 絵画、彫刻、版画、素描類、工芸（陶芸・漆芸・金工・染織など）・デザイン、写真など、芸術の動向に係る作品・資料をジャンルの区別なく収集するだけでなく、複数のジャンルを横断する作品も積極的に収集対象とする。
- ウ 日本の作品については、全国の動向に目配りしつつも、京都を基盤とし、関西さらには西日本での芸術活動に重点を置き、所蔵作品の充実を図る。
- エ 国外の作品については、日本の芸術と世界の関係に鑑み、日本へ／からの影響関係が認められる作品の収集に重点を置く。特にダダイズムのような、芸術におけるパラダイムシフトに大きな役割を果たした動向の作品に注目する。

（国立西洋美術館）

- ア 15～20世紀ヨーロッパ絵画等の収集に努める。
- イ ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションを充実させる。
- ウ 国内外に残る旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。

（国立国際美術館）

- ア 1945年以降の日本の現代美術作品の系統的収集を継続する。
- イ 国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を継続する。

①-2 寄贈・寄託作品の受入れを推進するとともに、所蔵作品展等における積極的な活用を図る。

①-3 法人本部が管理する美術作品購入費については、緊急を要する美術作品や通常予算では購入できない金額の美術作品を優先的に購入することとする。購入作品の選定に当たっては法人全体で協議する。

なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

（2）所蔵作品の保管・管理

保管施設の狭隘・老朽化への対応に取り組む。

平成30年度に策定した保管施設の狭隘・老朽化対応方針を踏まえ、抜本的な改善を図るため、各館で横断的に活用が可能な形態や方法について、既存の施設との連携を図りなが

ら、地元自治体や関係機関の協力を得られるよう調査及び検討を進める。

また、新たな保管施設が整備されるまでの間、特に狭隘化が進んでいる東京国立近代美術館及び京都国立近代美術館の所蔵作品の一部を外部の民間保管施設に保管することで、美術作品の適正な保管と保全を図る。

(3) 所蔵作品等の修理、修復

所蔵作品等の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う。

ア 東京国立近代美術館本館では、作品貸与時の対応も含め、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を進める。特に、日本画の屏風等大型作品の修復、作品の安全性・鑑賞性を高める額装の改変などを中心的に進める。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品のうち染織と漆工作品の現状保存修復を行う。また、過去の展覧会に出品されたポスターのクリーニング等を行う。さらに、移転に伴い、作品や図書資料の燻蒸を行う。

ウ 京都国立近代美術館では、寄贈により収集したものの、作品保護の観点から展示に活用できていない美術作品の保存修復処置を優先的に行う。特に、経年劣化による影響の大きい日本画を中心に進め、京都国立近代美術館での展示のみならず、作品貸与の依頼にも応えられるようにする。

エ 国立西洋美術館では、展示や貸出の活用機会の多い近代絵画作品、版画・素描作品等の保存修復処置を行う。近年収蔵した旧松方コレクションについても、整理・調査及び保存修復作業を継続して実施し、速やかに展示活用できる状態にすることに努める。保存科学者と協力し、作品の科学調査を進め、作品の制作技術や材料についての調査研究にも努める。

オ 国立国際美術館では、展示・貸出予定のある作品、新収蔵作品を優先的に、作品の状態を確認し、必要な修復等の処置を施す。

カ 国立新美術館では、保存状態が悪く、そのままでは利用が難しい寄贈資料について、デジタル画像作成を含めた保存修復措置を行う。

(4) 所蔵作品の貸与

所蔵作品について、各館においてその保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 国内外の美術館等との連携・協力等

① 各館において国内外の研究者を招へいし、展覧会の開催等に合わせ各種講演会・セミナー・シンポジウムを開催する。

ア 京都国立近代美術館では、「チェコ・デザイン 100年の旅」、「人間国宝 森口邦彦 友禅／デザイン 交差する自由へのまなざし」、「ピピロツティ・リスト（仮称）」及び「分離派建築会100年（仮称）」開催に際し、国外の研究者を招聘し、シンポジウムや講演会を開催する。

イ 国立西洋美術館では、企画展「スポーツ in アート展-ギリシャ彫刻×印象派の時

代」開催にあわせ、アテネ国立考古学博物館から研究者を招聘し講演会を開催する。

ウ 国立新美術館では、「ファッション イン ジャパン 1945-2020 流行と社会」開催にあわせ、文化学園大学との共催イベントとして今後のファッション教育に関するシンポジウムを開催するほか、1980年代のファッション、90年代のストリートファッション、メンズファッション、建築や街並みとファッションの関係について、ファッションの未来についてなど、各分野の研究者やファッションデザイナー、専門家たちを講師に迎えたシンポジウムやラウンドテーブルを開催する。

また、「MANGA都市TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム 特撮2020」では、令和元年に大英博物館で開催された「The City Exhibition Manga」展のリードキュレーター、クーリッジ・ルーマニエール氏を招へいし、マンガを展示する意義について国内研究者とのシンポジウムを開催する。

② 展覧会等の紹介や企画に関連し、海外の美術館との連携・協力を図る。

ア 東京国立近代美術館本館では、V & Aダンディ（スコットランド）他への「隈研吾展（仮称）」の海外巡回について検討を進める。また令和3年度開催予定の「大竹伸朗展（仮称）」について、共同企画者、巡回先となるミネアポリス美術館（アメリカ）とともに調査・研究を進める。

イ 京都国立近代美術館では、前年度開催した「ドレス・コード？——着る人たちのゲーム」を、令和2年9月19日から令和3年1月31日までの会期で、連邦美術館（ボン、ドイツ）へ巡回する。また、将来的な関係構築を視野に入れ、国外美術館からの作品借用依頼に積極的に対応する。

ウ 日本とギリシャの文化交流事業の一環として、国立西洋美術館とギリシャ文化・スポーツ省の主催で前年度に開催した海外展「明治の工芸／平成の工芸—150年の時代を超えた日本のわざと装飾の美」（会場：ギリシャ近代文化博物館（ギリシャ・アテネ））に応じる形で、ギリシャ側が国内所蔵品約60点を企画展「スポーツ in アート展-ギリシャ彫刻×印象派の時代」に出品する。

エ 国立国際美術館では、大館美術館（中国・香港）においてコレクションを活用した展覧会「They Do Not Understand Each Other」をシンガポール美術館（シンガポール）との3館で共同研究・共同開催し、アジア圏における連携・協力の強化につとめる。

オ 国立新美術館では、日仏友好160年を記念した日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム2018：響きあう魂」の公式企画としてパリのラ・ヴィレットと共同で開催した「MANGA⇄TOKYO」（平成30年11月29日～12月30日）を、巡回展「MANGA都市TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム 特撮2020」として開催する。

③ 全国の美術館等の運営に対する援助、助言を適時行うとともに、地方巡回展の開催、企画展の共同主催やそれに伴う共同研究等を通じて、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に取り組む。

(2) ナショナルセンターとしての人材育成

① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。

ア 小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る。

イ 各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子供たちに対する鑑賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中・高等学校の教員と学芸員等が一堂に会し、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実にための指導者研修」について、今年度は15周年を迎えるにあたり、研修の果たした役割や成果を確認し、今後の目標と課題を考えるシンポジウムを開催する。

あわせて、法人ホームページでの開催概要及び開催報告の掲載を通じ幅広い層への広報に努める。

開催日：令和2年10月10日（土）

会場：国立新美術館

②-1 公立美術館の学芸担当職員を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の普及向上を図る。

研修希望者の募集に際しては、前年度と同様に研修を受け入れる国立美術館各館の展覧会概要及び受入れ可能な研修分野の情報を提示し9月に公募を開始する。

②-2 美術館活動を担う人材の育成に資するようインターンシップ等の事業を次のとおり実施する。

ア 各館においてインターンシップ制度を実施する。

イ 国立映画アーカイブにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。

ウ 国立映画アーカイブにおいて、映画保存に関わる人材育成プログラムとして、アーカイブセミナーや映画フィルムの映写と取扱いに関するワークショップを開催

エ 国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して美術館運営に関する教育を行う。

オ 国立新美術館において、近隣の政策研究大学院大学との連携の一環として、展覧会等に関するガイダンスや美術館建築の機能を紹介する建築ツアー等を実施する。

（3）国内外の映画関係団体等との連携等

国立映画アーカイブでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として、国内外の映画関係団体等と連携しながら次の取組を実施する。

① 映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお、収集にあたっては、自主製作映画等企业の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし、受贈については、デジタル素材の受入れも視野に入れながら、映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているプリントやフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、作品レベルでの網羅性を向上させるとともに、映画史の調査研究に資する幅広い種類の資料の収集を行う。加えて、本年度は特に次の点について留意する。

- ア 歴史的に重要な映画作品のデジタル復元を実施する。
- イ フィルム、デジタルともにオリジナルフォーマットを優先した収集を行う。
- ② 可燃性フィルムや大型映画、小型映画などの特殊なフォーマットを含む映画フィルムの検査体制の充実を図り、劣化等に応じた柔軟な処置を施せるよう、フィルムの保管・保存・復元について、情報収集に努めるとともに、映画史的に重要なカラーシステムや、70mmフィルム等大型映画、3D映画等の適切な保存・復元に向けての調査・作業を継続する。映画の復元については、現存する最良の素材をもとに、オリジナルの再現を目指したワークフローにより実施する。また、映画会社や海外のフィルム・アーカイブと共同で最新のデジタル復元を実施する。また、映画ポスターやシナリオ、プレス資料、図書、雑誌といった映画資料についても保存修復措置を行いながらデジタル化を図る。
- ③ 国内外の同種機関や映画祭等が開催する上映会・展覧会に対し貸与を通して協力し、保存・復元の成果や、日本映画を中心に充実を図っているコレクションの活用・発信を図る。また、所蔵作品及び関連情報へのアクセスの増大と多様化への効率的な対応を念頭に、デジタル・ファイルも含めたフィルム・コレクションへのアクセス対応を実施する。
- ④ 上映会や展覧会及び教育普及に関わる講演会及びセミナー等を開催する。また、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）に関連した講演会等を開催する。
- ⑤ 海外において以下の共催上映を実施する。
- ア 清水宏 一映画の野生児
期間：令和2年4月から5月
会場：シネマテーク・フランセーズ、パリ日本文化会館
共催：シネマテーク・フランセーズ、パリ日本文化会館
- イ 第34回ボローニャ復元映画祭
期間：令和2年6月（予定）
会場：チネテカ・ディ・ボローニャほか（イタリア・ボローニャ）
共催：フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ
- ⑥ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機関等と情報交換を図りながら、映画フィルムの保存・修復活動等に携わる機関や団体への協力を行う。
- ⑦ 国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。
- ⑧ 「国立映画アーカイブ・大学等連携事業」の一環として、国立美術館キャンパスメンバーズ（東京国立近代美術館及び国立映画アーカイブ利用校）とともに、国立映画アーカイブの所蔵映画フィルムと施設を利用した講義等を実施する。

- ⑨ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」事業に協力し、「国立映画アーカイブ所蔵映画フィルム検索システム」への接続を通じた所蔵情報の公開を行う。
- ⑩ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に研究員等が出席する。
- ⑪ 国内の映画団体・映画資料館との連携を通じ、全国各地で保存されている映画関連資料に関する情報を収めた「全国映画資料館録」の更新版を刊行する。
- ⑫ 近隣関係施設と連携・協力し「東京アート&ライブシティ」を構成して、展覧会や上映企画等を掲載したイベントマップへの参加や、アートによる地域連携活動を行う。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の取組

業務運営の一層の効率化を進めるため、次のような措置を講ずる。

(1) 省エネルギー

観覧環境を阻害しない範囲において、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく中長期計画に沿って、エネルギー使用量の削減に努める。

(2) 共同調達等の推進

共同調達等を推進し、業務の効率化に努める。

2 組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、組織・体制の強化に努める。

3 契約の点検・見直し

「調達等合理化計画」の策定及び国立美術館契約監視委員会の開催（1回程度）により、随意契約及び一般競争入札について点検、見直しを行う。その結果も踏まえ、一般競争入札及び企画競争・公募による競争性のある契約方式及び契約の包括化を推進する。

4 共同調達等の取組の推進

周辺の機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。

- ア コピー用紙
- イ トイレットペーパー
- ウ 廃棄物処理
- エ トイレ用洗剤、脱臭器具の賃貸借
- オ 電気

5 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数について

は適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

また、令和2年度においてもこれまでの人件費改革の取組の効果が活きるよう、より一層の組織の見直し等に努める。

6 情報通信技術を活用した業務の効率化

法人内の情報システムネットワークの一元化を基盤として、TV会議システム、グループウェア等の活用による効率化を進める。VPNバックアップ回線を増強するなどバックアップ・インフラの増強に努める。

7 予算執行の効率化

共同調達や競争入札を推進し、予算の効率的な執行に努める。

III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 自己収入の確保

施設利用等の施設貸出収入や会員制度による会費収入の増加などに取り組み、自己収入の増加を目指す。また、寄附金等外部資金の獲得促進に取り組む。

2 保有資産の有効利用・処分

保有する美術館施設等の資産については、外部貸出による講堂等の利用率の向上及び閉館時等におけるエントランスロビー等の活用を図るとともに、保有の目的・必要性について不断の見直しを行い、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

3 予算（年度計画の予算）

別紙1のとおり。

4 収支計画

別紙2のとおり。

5 資金計画

別紙3のとおり。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 内部統制・ガバナンスの強化

- (1) 理事長裁量経費を計上し、理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備する。外部の有識者による運営委員会に対し国立美術館の管理運営に関して諮問を行い、審議結果を運営管理に反映させるなど内部統制の充実を図る。

(2) 国立美術館が安定してその情報コンテンツを国民に提供できるように情報管理の安全性の向上を図るとともに、コンピュータウィルスに関連する情報を職員に周知するなど、情報セキュリティ対策の向上と改善を行う。

また、「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報セキュリティポリシー」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を進める。

(3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況等については内部監査、監事監査等において定期的に検証し、必要に応じて見直しを行う。また、業務運営全般については、外部評価委員会及び運営委員会を開催し、指摘内容について理事会等において検討し、組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、「国立美術館外部評価報告書」については法人ホームページで公表する。

2 施設・設備に関する計画

(1) 施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

- ① 令和元年度補正予算措置に基づき、国立西洋美術館総合改修その他工事を進める。
- ② 平成 28 年度に策定した「国立美術館インフラ長寿命化計画（行動計画）」に基づき、「国立美術館インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」の策定を進める。

(2) 国立新美術館の用地（未購入の土地）について、施設・設備に関する計画に基づき、予算措置に応じて購入を進める。

3 人事に関する計画

(1) 方針

- ① 職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。
 - ア 新規採用者研修
 - イ 接遇研修
 - ウ メンタルヘルスケアに関連する研修
 - エ 情報セキュリティ研修
 - オ コンプライアンス研修
- ② 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。特に研究職職員への研修機会の増大に努める。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。また、任期付研究員及びアソシエイトフェロー制度並びに特定有期雇用職員制度のより一層の活用を図る。

4 積立金の使途

前中期目標期間の積立金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、当期に繰り越

された経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

また、今中期目標期間の前期までに生じた剰余金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、中期計画に定める用途に係る経費等に充当する。

5 その他

(1) 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」(平成 25 年 12 月 24 日閣議決定)に基づき、業務運営に関して様々な工夫・努力を行う。

(2) 「工芸館移転の基本的な考え」(平成 28 年 8 月文化庁公表)を踏まえ、東京国立近代美術館工芸館を石川県金沢市に移転する。移転後においては地域との連携も見据えつつ事業を展開する。

別紙1
 予算(年度計画の予算)

令和2年度予算

(単位:百万円)

| 区 分 | 美術振興事業 | ナショナル コレクション 形成・継承事業 | ナショナル センター事業 | 共 通 | 合 計 |
|---------------------------|--------|----------------------------|-----------------|-------|--------|
| 収 入 | | | | | |
| 運営費交付金 | 2,207 | 3,685 | 537 | 1,123 | 7,552 |
| 展示事業等収入 | 1,561 | 4 | 9 | 7 | 1,581 |
| 寄附金収入 | 0 | 0 | 0 | 650 | 650 |
| 施設整備費補助金 | 0 | 0 | 0 | 1,381 | 1,381 |
| 計 | 3,768 | 3,689 | 546 | 3,161 | 11,164 |
| 支 出 | | | | | |
| 運営事業費 | 3,768 | 3,689 | 546 | 1,130 | 9,133 |
| 管理部門経費 | 0 | 0 | 0 | 1,130 | 1,130 |
| うち人件費 | 0 | 0 | 0 | 435 | 435 |
| うち一般管理費 | 0 | 0 | 0 | 695 | 695 |
| 事業部門経費 | 3,768 | 3,689 | 546 | 0 | 8,003 |
| うち人件費 | 474 | 126 | 153 | 0 | 753 |
| うち美術振興事業費 | 3,294 | 0 | 0 | 0 | 3,294 |
| うちナショナルコレクション 形成・継承事業費 | 0 | 3,563 | 0 | 0 | 3,563 |
| うちナショナルセンター事業費 | 0 | 0 | 393 | 0 | 393 |
| 寄附金事業費 | 0 | 0 | 0 | 650 | 650 |
| 施設整備費 | 0 | 0 | 0 | 1,381 | 1,381 |
| 計 | 3,768 | 3,689 | 546 | 3,161 | 11,164 |

別紙2
収支計画

令和2年度収支計画

(単位:百万円)

| 区 分 | 美術振興事業 | ナショナル コレクション 形成・継承事業 | ナショナル センター事業 | 共 通 | 合 計 |
|---------------------------|--------|----------------------------|-----------------|-------|-------|
| 費用の部 | | | | | |
| 経常経費 | 3,852 | 738 | 394 | 1,769 | 6,753 |
| 管理部門経費 | 0 | 0 | 0 | 1,107 | 1,107 |
| うち人件費 | 0 | 0 | 0 | 435 | 435 |
| うち一般管理費 | 0 | 0 | 0 | 672 | 672 |
| 事業部門経費 | 3,748 | 720 | 368 | 0 | 4,836 |
| うち人件費 | 474 | 126 | 153 | 0 | 753 |
| うち美術振興事業費 | 3,274 | 0 | 0 | 0 | 3,274 |
| うちナショナルコレクション 形成・継承事業費 | 0 | 594 | 0 | 0 | 594 |
| うちナショナルセンター事業費 | 0 | 0 | 215 | 0 | 215 |
| 寄附金事業費 | 0 | 0 | 0 | 650 | 650 |
| 減価償却費 | 104 | 18 | 26 | 12 | 160 |
| 収益の部 | | | | | |
| 経常収益 | 3,852 | 738 | 394 | 1,769 | 6,753 |
| 運営費交付金収益 | 2,187 | 716 | 359 | 1,100 | 4,362 |
| 展示事業等の収入 | 1,561 | 4 | 9 | 7 | 1,581 |
| 寄附金収益 | 0 | 0 | 0 | 650 | 650 |
| 資産見返運営費交付金戻入 | 97 | 16 | 24 | 12 | 149 |
| 資産見返寄附金戻入 | 4 | 1 | 1 | 0 | 6 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 3 | 1 | 1 | 0 | 5 |

別紙3
資金計画

令和2年度資金計画

(単位:百万円)

| 区 分 | 美術振興事業 | ナショナル コレクション 形成・継承事業 | ナショナル センター事業 | 共 通 | 合 計 |
|---------------|--------|----------------------------|-----------------|-------|--------|
| 資金支出 | 3,768 | 3,689 | 546 | 3,161 | 11,164 |
| 業務活動による支出 | 3,748 | 3,683 | 526 | 1,757 | 9,714 |
| 投資活動による支出 | 20 | 6 | 20 | 1,404 | 1,450 |
| 資金収入 | 3,768 | 3,689 | 546 | 3,161 | 11,164 |
| 業務活動による収入 | 3,768 | 3,689 | 546 | 1,780 | 9,783 |
| 運営費交付金による収入 | 2,207 | 3,685 | 537 | 1,123 | 7,552 |
| 展示事業等による収入 | 1,561 | 4 | 9 | 7 | 1,581 |
| 寄附金収入 | 0 | 0 | 0 | 650 | 650 |
| 投資活動による収入 | 0 | 0 | 0 | 1,381 | 1,381 |
| 施設整備費補助金による収入 | 0 | 0 | 0 | 1,381 | 1,381 |

別表1 令和2年度 所蔵作品展・企画展 計画

※所蔵作品展の入館者については、各館において、前中期目標期間における年間平均入館者数以上を目標とする。
 ※令和2年2月29日から新型コロナウイルス感染症予防対策による臨時休館を実施しているが、令和元年度の会期、開催日数及び目標入館者数については当初計画していた数値を記載している。また、令和2年度の会期、開催日数及び目標入館者数についても変更となる可能性がある。

| | | |
|--------|---------|-------------|
| 目標入館者数 | 全館合計 | 2,585,500 人 |
| | 所蔵作品展 | 726,000 人 |
| | 企画展 | 1,766,000 人 |
| | NFAJ上映会 | 78,500 人 |
| | NFAJ展覧会 | 15,000 人 |

(東京国立近代美術館)

(本館)

| | 展覧会名 | 共催 | 会期等 | 日数 (年度内) | 目標 入館者数 (年度内) |
|----------------|--|-----------------------------|--------------------|-------------|---------------------|
| 所蔵 作品展 | MOMATコレクション (「美術館の春まつり」, 「男性彫刻(仮称)」, 「幻視するレンズ(仮称)」他特 集及びコレクションによる小 企画を含む) | — | 6回展示替え | 274 | 184,000 |
| 企画展 | ①ピーター・ドイグ展 ※1 | 読売新聞、ぴあ | 2/26(水) ~ 6/14(日) | 65 | 49,000 |
| | ②隈研吾展(仮称) | 文化庁、独立行政法 人日本芸術文化振興 会 | 7/17(金) ~ 10/25(日) | 90 | 83,000 |
| | ③眠りの理由 国立美術館コ レクションによる展覧会(仮 称) | 主催 国立美術館 | 11/25(水) ~ 2/23(火) | 74 | 41,000 |
| | ④あやしい絵展 ※2 | 毎日新聞 | 3/23(火) ~ 5/16(日) | 9 | 15,000 |
| | 企画展 計 | | | | 238 |
| 所蔵作品展 ・ 企画展 合計 | | | | | 372,000 |

※1 通算の開催日数は96日間、目標入館者数は71,000人。

※2 通算の開催日数は49日間、目標入館者数は80,000人。

(工芸館)

| | 展覧会名 | 共催 | 会期等 | 日数 (年度内) | 目標 入館者数 (年度内) |
|-----|--|----|---------------------|-------------|---------------------|
| 企画展 | 国立工芸館石川移転開館記念 展Ⅰ「工の芸術—素材・わ ざ・風土」(仮称) | — | 7/16(木) ~ 9/22(火) | 60 | 11,000 |
| | 国立工芸館石川移転開館記念 展Ⅱ「うちにこんなあった ら展 工芸館のデザイン+工 芸コレクション」(仮称) | — | 10/14(水) ~ 12/20(日) | 59 | 10,000 |
| | 国立工芸館石川移転開館記念 展Ⅲ「近代工芸と茶の湯—四 季のしつらい—」(仮称) | — | 1/2(土) ~ 3/21(日) | 68 | 11,000 |
| | 企画展 計 | | | | 187 |

| | | |
|------------|-------|-----------|
| (本館)・(工芸館) | 合計 | 404,000 人 |
| | 所蔵作品展 | 184,000 人 |
| | 企画展 | 220,000 人 |

(京都国立近代美術館)

| | 展覧会名 | 共催 | 会期等 | 日数 (年度内) | 目標 入館者数 (年度内) |
|----------------|-----------------------------------|----------------------------------|-----------------------|-------------|---------------------|
| 所蔵 作品展 | コレクション展 | — | 5回展示替え | 283 | 118,000 |
| 企画展 | ①チェコ・デザイン 100年の旅 ※1 | 読売新聞社、チェコ国立プラハ工芸美術館 | 3/6 (金) ~ 5/10 (日) | 36 | 20,000 |
| | ②ポーランドの映画ポスター ※2 | 国立映画アーカイブ | 3/17 (火) ~ 5/10 (日) | 36 | 14,500 |
| | ③人間国宝 森口邦彦 友禅 / デザイン 交差する自由へのまなざし | 文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、日本経済新聞社、京都新聞 | 5/23 (土) ~ 7/12 (日) | 44 | 20,000 |
| | ④京のくらし—二十四節気を愉しむ | NHK京都放送局、KBS京都、京都新聞 (予定) | 7/28 (火) ~ 9/22 (火) | 50 | 27,000 |
| | ⑤ピピロッチェ・リスト (仮称) | — | 10/16 (金) ~ 12/13 (日) | 51 | 20,000 |
| | ⑥分離派建築会100年 (仮称) | 朝日新聞社 | 1/6 (水) ~ 3/7 (日) | 53 | 28,000 |
| 企画展計 | | | | 234 | 115,000 |
| 所蔵作品展 ・ 企画展 合計 | | | | | 233,000 |

※1 通算の開催日数は58日間、目標入館者数は33,000人。

※2 通算の開催日数は49日間、目標入館者数は20,000人。コレクション・ギャラリーで開催する企画展のため、合計には計上しない。

(国立映画アーカイブ)

| | 上映会・展覧会名 | 共催 | 会期等 | 日数 (年度内) | 目標 入館者数 (年度内) | 会場 |
|-----|-------------------------|--|-----------------------|-------------|---------------------|----------------------|
| 上映会 | ①EUフィルムデーズ2019 | 駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関 | 5/30 (土) ~ 6/21 (日) | 20 | 9,500 | 長瀬記念ホール OZU |
| | ②松竹第一主義 松竹キネマの100年 (仮称) | — | 6/25 (木) ~ 9/6 (日) | 64 | 16,500 | 〃 |
| | ③第42回びあフィルムフェスティバル | 一般社団法人PFF、公益財団法人ユニジャパン、公益財団法人川喜多記念映画文化財団 | 9/12 (土) ~ 9/26 (土) | 13 | 4,500 | 長瀬記念ホール OZU (一部小ホール) |
| | ④生誕100年 映画俳優 三船敏郎 | — | 10/2 (金) ~ 10/28 (水) | 18 | 8,000 | 長瀬記念ホール OZU |
| | ⑤アメリカ映画特集 (仮称) | (未定) | 10/29 (木) ~ 11/8 (日) | 10 | 3,500 | 〃 |
| | ⑥サイレントシネマ・デイズ 2020 | — | 11/10 (火) ~ 11/15 (日) | 6 | 1,500 | 〃 |

| | | | | | | |
|--------------|-----------------------------------|-----------------------------|-----------------------|-----|--------|--------|
| 上映会 | ⑦生誕100年 映画女優 原節子 | — | 11/17 (火) ~ 12/11 (金) | 22 | 6,500 | 〃 |
| | ⑧生誕100年 映画女優 山口淑子 | — | 12/12 (土) ~ 12/27 (日) | 14 | 4,000 | 〃 |
| | ⑨中国映画の全貌 (仮称) | 中国電影資料館 | 1/5 (火) ~ 1/31 (日) | 24 | 5,500 | 〃 |
| | ⑩1980-1990年代日本映画特集 (仮称) | — | 2/9 (火) ~ 3/28 (日) | 42 | 12,500 | 〃 |
| | ⑪35mmフィルムで見るクリント・イーストウッドの軌跡 (仮称) | ワーナー ブラザース ジャパン合同会社 | 6/26 (金) ~ 8/16 (日) | 23 | 3,500 | 小ホール |
| | ⑫レパートリー上映 2020秋 (仮称) | — | 11/13 (金) ~ 11/29 (日) | 9 | 1,500 | 〃 |
| | ⑬レパートリー上映 2021冬 (仮称) | — | 2/19 (金) ~ 3/7 (日) | 9 | 1,500 | 〃 |
| 上映会 計 | | | | 274 | 78,500 | |
| 展覧会 | ①松竹第一主義 松竹キネマの100年 (仮称) | — | 5/29 (金) ~ 8/30 (日) | 81 | 5,000 | |
| | ②公開70周年記念 映画「羅生門」展 (仮称) | 文化庁、京都府京都文化博物館、映像産業振興機構(予定) | 9/12 (土) ~ 12/6 (日) | 74 | 5,500 | |
| | ③川本喜八郎+岡本忠成 パペット・アニメーション2020 (仮称) | — | 12/19 (土) ~ 3/28 (日) | 74 | 4,500 | |
| | 展覧会 計 | | | | 229 | 15,000 |
| 上映会 ・ 展覧会 合計 | | | | | 93,500 | |

(国立西洋美術館)

| | 展覧会名 | 共催 | 会期等 | 日数 (年度内) | 目標 入館者数 (年度内) |
|----------------|-----------------------------|---------------------------------|----------------------|-------------|---------------------|
| 所蔵 作品展 | 西洋美術館コレクション | — | 1回展示替え | 175 | 321,500 |
| 企画展 | ①ロンドン・ナショナル・ギャラリー展 ※ | ロンドン・ナショナル・ギャラリー、読売新聞社、日本テレビ放送網 | 3/3 (火) ~ 6/14 (日) | 66 | 240,000 |
| | ②スポーツ in アート —ギリシャ彫刻×印象派の時代 | 日本経済新聞社、NHK、NHKプロモーション | 7/11 (土) ~ 10/18 (日) | 89 | 206,000 |
| | 企画展 計 | | | | 155 |
| 所蔵作品展 ・ 企画展 合計 | | | | | 767,500 |

※ 通算の開催日数は92日間、目標入館者数は320,000人。

(国立国際美術館)

| | 展覧会名 | 共催 | 会期等 | 日数 (年度内) | 目標 入館者数 (年度内) |
|----------------|-----------------------|--|----------------------|-------------|---------------------|
| 所蔵 作品展 | コレクション展 | — | 5回展示替え | 245 | 102,500 |
| 企画展 | ヤン・ヴォー ーオヴ・ンヤ | — | 4/4 (土) ~ 6/14 (日) | 63 | 15,000 |
| | ロンドン・ナショナル・ギャ ラリー展 | ロンドン・ナショナ ル・ギャラリー、読 売新聞社、読売テレ ビ | 7/7 (火) ~ 10/18 (日) | 92 | 236,000 |
| | 感覚の交差展 (仮称) | — | 11/7 (土) ~ 12/25 (金) | 42 | 18,000 |
| | ボイス+パレルモ (仮称) | — | 1/16 (土) ~ 3/7 (日) | 44 | 14,000 |
| | ミケル・バルセロ展 (仮称) ※ | — | 3/27 (土) ~ 5/30 (日) | 4 | 2,000 |
| | 企画展 計 | | | | 245 |
| 所蔵作品展 ・ 企画展 合計 | | | | | 387,500 |

※ 通算の開催日数は57日間、目標入館者数は 18,000人。

(国立新美術館)

| | 展覧会名 | 共催 | 会期等 | 日数 (年度内) | 目標 入館者数 (年度内) |
|-------|--|---|-----------------------|-------------|---------------------|
| 企画展 | ①古典×現代2020—時空を超 える日本のアート ※1 | 國華社、朝日新聞 社、文化庁、独立行 政法人日本芸術文化 振興会 | 3/11 (水) ~ 6/1 (月) | 54 | 110,000 |
| | ②ファッション イン ジャ パン 1945-2020 流行と社会 | 島根県立石見美術 館、読売新聞社、文 化庁、独立行政法日 本芸術文化振興会 | 6/3 (水) ~ 8/24 (月) | 74 | 96,000 |
| | ③MANGA都市TOKYO ニッポ ンのマンガ・アニメ・ゲ ーム・特撮 2020 | 文化庁、独立行政 法人日本芸術文化振 興会、TBS | 7/8 (水) ~ 9/22 (火) | 71 | 110,000 |
| | ④佐藤可士和展 | SAMURAI、TBSグロ ウディア、BS-TBS、 朝日新聞社、TBSラ ジオ、TBS | 9/16 (水) ~ 12/14 (月) | 78 | 139,000 |
| | ⑤カラヴァッジョ 《キリス トの埋葬》展 (仮称) | バチカン美術館、 角川文化振興財団、 朝日新聞社、TBSグ ロウディア | 10/21 (水) ~ 11/30 (月) | 36 | 53,000 |
| | ⑥DOMANI・明日2021 (仮 称) | 文化庁 | 1/9 (土) ~ 2/14 (日) | 32 | 14,000 |
| | ⑦オルセー美術館展 (仮 称) ※2 | 日本経済新聞社 | 2/10 (水) ~ 5/10 (月) | 43 | 164,000 |
| | ⑧イヴ・サンローラン展 (仮 称) ※3 | 産経新聞 | 3/24 (水) ~ 6/14 (月) | 7 | 14,000 |
| 企画展 計 | | | | 395 | 700,000 |

※1 通算の開催日数は72日間、目標入館者数は147,000人。

※2 通算の開催日数は78日間、目標入館者数は298,000人。

※3 通算の開催日数は72日間、目標入館者数は146,000人。

別表2 各館の令和2年度調査研究

※調査研究は以下の目的に沿って実施する。

- ア 美術作品の収集・展示・保管に関する調査研究
- イ 教育普及活動のための調査研究
- ウ 情報の収集・提供のための調査研究
- エ 映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究
- オ その他の美術館活動のための調査研究

(東京国立近代美術館)
(本館)

| 調査研究内容 | 連携研究機関等 | 調査研究目的 |
|--|------------------|--------|
| 隈研吾と新しい公共性の概念 | 隈研吾建築都市設計事務所 | ア |
| 美術における眠りと夢 | 独国立美術館全館 | ア |
| 幕末から昭和初期における女性イメージの調査研究—エロ・グロ・ナンセンスの視点から | 大阪歴史博物館 | ア |
| 大竹伸朗作品におけるサブカルチャー | ミネアポリス美術館 | ア |
| 「MOMATコレクション」 | — | ア |
| 「MOMATコレクション 特集：美術館の春まつり」 | — | ア |
| 「コレクションによる小企画 男性彫刻」 | — | ア |
| 「コレクションによる小企画 幻視するレンズ」 | — | ア |
| ソル・ルウィットのウォール・ドローイング | — | ア |
| 日本画作品の新しい修復技法・材料の検討 | 東京文化財研究所 | ア |
| デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較 | 西川茂（写真家） | ア |
| 児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進 | — | イ |
| 企画展示やコレクションを活用してのワークショップ、鑑賞ガイド等の推進 | — | イ |
| ビジネスパーソンなど特定の層に向けての鑑賞プログラムの推進 | 山口周（独立研究者） | イ |
| 訪日外国人に向けての英語鑑賞プログラムの推進 | 大高幸（アート・エデュケーター） | イ |
| 国立美術館の公開情報情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイ・システムの開発、並びに国立国会図書館サーチ(NDL Search)及び文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続維持 | — | ウ |
| 所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充（独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムでの公開を目標に） | — | ウ |
| エントランスホール等共用部の環境整備 | 西澤徹夫建築事務所 | エ |
| 美術館非来館者層に関する動向調査をもとにした分析と広報計画の策定 | — | エ |
| 戦後日本の前衛美術のクロス・レファレンス的研究 1945-1955 | 科学研究費補助金、3年目 | ア |
| 大正期から昭和期における「皇室映画」の研究活用に向けた基礎調査 | 科学研究費補助金、3年目 | ア |

| | | |
|-----------------------------------|--------------|---|
| 1990年代から2000年代のロンドンにおける具象絵画に関する研究 | 科学研究費補助金、2年目 | ア |
| 日本における70ミリ劇映画文化の受容とそのイメージの復元 | 科学研究費補助金、2年目 | ア |
| 日本を中心としたアジア諸国の現代美術と美術理論に関する総合研究 | 科学研究費補助金、2年目 | ア |
| 写真・映像の「影響」から見た日本の前衛芸術——昭和戦前期を中心に | 科学研究費補助金、2年目 | オ |
| 近現代日本のセメント美術に関する研究 | 科学研究費補助金、2年目 | オ |

〈工芸館〉

| 調査研究内容 | 連携研究機関等 | 調査研究目的 |
|---------------------------------------|---|---------|
| 近現代工芸の歴史的展開と産地の関連性 | — | ア |
| 近代日本の工芸におけるデザイン思想 | — | ア |
| 近・現代工芸と茶の湯 | — | ア |
| バウハウスと1930年代頃の日本の工芸・デザインの影響 | ミサワバウハウスコレクション | ア |
| 近現代工芸におけるジャポニスムの影響 | — | ア |
| 戦後日本のポスターデザイン | 印刷博物館 | ア |
| 近・現代の竹工芸の歴史と展開 | メトロポリタン美術館、大分県立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館 | ア |
| 備前焼の歴史と近・現代の陶芸家による表現 | 益子陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、MIHO MUSEUM、兵庫陶芸美術館、岡山県立美術館、愛知県陶磁美術館 | ア |
| 児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進 | — | イ |
| 松田権六資料の活用について | — | ア、イ |
| 国立工芸館と周辺美術館・博物館との連携について | 石川県立美術館、金沢21世紀美術館、金沢市立中村記念美術館ほか | ア、イ、ウ、オ |
| タッチ作品の活用について | 石川県七尾美術館 | イ |
| 国立工芸館の環境整備 | 石川県、金沢市 | ア、オ |
| 石川移転後の現工芸館建物利用計画の検討 | — | ア、オ |
| 「綾錦」に関する総合的研究 | 一般財団法人西陣織物館、川島織物文化館 | オ |
| 日系アメリカ人二世によるデザイン活動について：グラフィックデザインを中心に | — | オ |

（京都国立近代美術館）

| 調査研究内容 | 連携研究機関等 | 調査研究目的 |
|---------------------------|---|--------|
| 1918年以降100年間のチェコ・デザインについて | 世田谷美術館、神奈川県立近代美術館、岡崎市美術博物館、富山県美術館、チェコ国立プラハ工芸美術館 | ア |

| | | |
|--|--|-----|
| 大戦間期のチェコスロヴァキアにおけるブック・デザイン | 大阪中之島美術館、立命館大学 | ア |
| 1950～1990年代におけるポーランドの映画ポスター | 国立映画アーカイブ | ア |
| 須田国太郎の絵画論における「模倣」の多義性 | きょうと視覚文化振興財団 | ア |
| 森口邦彦の友禅とデザイン・ワーク | メトロポリタン美術館、ロサンゼルス・カウンティ美術館、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館、セーヴル磁器製作所 | ア、ウ |
| 二十四節気に基づくコレクション作品研究 | — | ア、エ |
| ピピロッチェ・リストの映像作品における身体 | 水戸芸術館現代美術ギャラリー | ア、オ |
| 分離派建築会の研究を通じた大正期における文化・芸術運動と建築運動との関係性についての考察 | パナソニック汐留美術館、京都大学 | ア |
| 児童生徒を対象とする鑑賞教育 | 京都市図画工作教育研究会、京都市立中学校教育研究会美術部会 | イ |
| ユニバーサルな美術鑑賞プログラム | 国立民族学博物館、京都市立芸術大学、京都府立盲学校 | イ、オ |
| 美術館の教育普及活動 | — | イ |
| 全国郷土資料館の現況に関する実地調査 | 科学研究費補助金、2年目 | オ |

(国立映画アーカイブ)

| 調査研究内容 | 連携研究機関等 | 調査研究目的 |
|--|--|--------|
| ヨーロッパ諸国の現代映画 | 駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関 | ア |
| 松竹映画の歴史 | — | ア |
| 日本の自主映画 | 一般社団法人PFF、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン | ア |
| 映画俳優三船敏郎の出演作 | — | ア |
| アメリカのフィルムアーカイブの所蔵映画 | — | ア |
| 外国映画を中心とする無声映画 | — | ア |
| 映画俳優原節子の出演作 | — | ア |
| 映画俳優山口淑子の出演作 | — | ア |
| 中国映画の歴史 | 中国電影資料館 | ア |
| 1980-1990年代の日本映画 | — | ア |
| クリント・イーストウッド監督の映画 | ワーナーブラザーズジャパン | ア |
| 映画『羅生門』の生成と分析 | 文化庁、京都府京都文化博物館 | ア |
| 川本喜八郎・岡本忠成監督の人形アニメーション | — | ア |
| 映画資料を整理するとともに、その画像をデジタル化し、活用することを目的とする事業 | — | ア、エ |

| | | |
|---|--|-----|
| 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在調査 | FIAF会員、国内外の同種機関、現像所 | ア |
| 可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録、アナログ及びデジタル技術を活用した復元、及び映写 | FIAF会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等 | ア、エ |
| 映画の収集のための原版の所在並びに権利帰属等の情報収集と調査 | 映画製作会社等諸団体 | ア |
| 東京を描いた文化・記録映画とホームムービー | 東京国際フォーラム | イ |
| 子どもを対象にした映画鑑賞プログラム | — | イ |
| 社会人を対象にした映画鑑賞プログラム | — | イ |
| 映写技術・復元、フィルム映写をテーマにした教育プログラム | — | イ |

（国立西洋美術館）

| 調査研究内容 | 連携研究機関等 | 調査研究目的 |
|-----------------------------------|------------------|--------|
| イギリスにおけるヨーロッパ美術のコレクション形成 | ロンドン・ナショナル・ギャラリー | ア |
| スポーツと身体表現 | — | ア |
| 中世末期から20世紀初頭の西洋美術 | — | ア |
| 所蔵版画作品 | — | ア |
| 美術館教育 | — | イ |
| ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計 | ル・コルビュジエ財団 | ア |
| 美術作品や歴史資料中の膠着材の同定法の構築—方法の改善・発展と実践 | 学術研究助成基金助成金、2年目 | ア |

（国立国際美術館）

| 調査研究内容 | 連携研究機関等 | 調査研究目的 |
|--------------------------|---------------------------------|--------|
| 所蔵作品 | — | ア |
| 現代美術の動向 | — | ア |
| ヤン・ヴォーについて | — | ア |
| ボイス、パレルモについて | 豊田市美術館、埼玉県立近代美術館 | ア |
| イギリスにおけるヨーロッパ美術のコレクション形成 | ロンドン、ナショナル・ギャラリー | ア |
| ミケル・バルセロについて | 長崎県美術館、三重県立美術館、東京オペラシティアートギャラリー | ア |
| 写真家 鷹野隆大について | — | ア |
| 松澤有について | 長野県信濃美術館 | ア |
| 所蔵作品のキュレーションについて | シンガポール美術館（シンガポール）、大館美術館（香港） | ア |

| | | |
|----------------------------|-----------------------------|---|
| アジア圏におけるタイムベースド・メディアの研究 | シンガポール美術館（シンガポール）、大館美術館（香港） | ア |
| パフォーマンスについて | シンガポール美術館（シンガポール）、大館美術館（香港） | ア |
| 児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進 | 大阪市教育センター、大阪府教育センター | イ |
| 美術館教育 | — | イ |
| 所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充、整備 | — | ウ |
| 映像、電子機器等を用いた所蔵作品の保存修復と情報管理 | — | ア |

（国立新美術館）

| 調査研究内容 | 連携研究機関等 | 調査研究目的 |
|-----------------------------|---------------------|--------|
| 日本の現代美術の動向 | — | ア |
| 海外の現代美術の動向 | — | ア |
| 日本のマンガ、アニメ、ゲーム | 一般社団法人 マンガアニメ展示促進機構 | ア |
| 日本のファッションとデザイン | 島根県立石見美術館 | ア |
| 古典と現代 | 國華社 | ア |
| 佐藤可士和 | — | ア |
| カラヴァッジョとカトリック改革 | バチカン美術館・図書館 | ア |
| 20世紀初頭のフランス美術・建築 | オルセー美術館 | ア |
| イヴ・サン＝ローラン研究 | 国立イヴ・サン＝ローラン美術館 | ア |
| 19世紀、20世紀のフランス美術 | エルミタージュ美術館 | ア |
| 庵野秀明 | — | ア |
| アンリ・マティス | マティス美術館 | ア |
| ニューヨーク近代美術館のコレクション形成史 | ニューヨーク近代美術館 | ア |
| パブロ・ピカソ | ポンピドゥーセンター | ア |
| 美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等） | — | イ |
| 日本の近・現代美術資料 | — | ウ |
| 戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開 | — | ウ |
| 美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法 | — | ウ |
| 美術情報の収集・提供システム | — | ウ |
| 美術館におけるデジタル・アーカイブの構築 | — | ウ |